

浪江町中心市街地再生計画検討委員会（第3回）議事要旨

日 時：平成28年12月7日（水）13：30～15：30

場 所：浪江町役場本庁舎大会議室

出席者：【検討委員】

間野博委員長 佐藤秀三副委員長 窪田亜矢委員 新谷保基委員
佐藤淳委員 草刈恒彦委員 朝田英洋委員

【浪江町】

清水喜代志顧問 金山信一課長補佐 青田洋平係長

阿部高浩委員は所用により欠席。

1. 開会

事務局の進行にて開会

2. 挨拶

間野委員長よりあいさつ

3. 会議

本庁舎 大会議室

（1）事務局から経過報告

- ・第2回検討委員会、第3・4回町民座談会、第3回職員検討会の結果報告

《以降の進行は間野委員長》

間野委員長：結果報告について質問等がありますか。

佐藤副委員長：これまでの会議の中で感じたことは、町に戻らないけどふるさととして残しておきたいと考えている人の理想的なふるさととしての形と町に戻ると考えている人の現実的な形の差が開いてきていると感じている。その差を縮めるにはいろいろな工夫が必要と考えている。

佐藤委員：町民座談会に若い方は参加されていませんか。

事務局：50代くらいの方が下限で、あとはご年配の方の参加となっている。

佐藤委員：他の委員会参加者でもご年配の方が多いのか。

事務局：津波被災地の総会などでも30代くらいの方は参加していない。

佐藤委員 : 20 年、30 年後の町を担う若い年代にも参加していただき、町に戻ったときにこの様にしようかとの思いを実行につなげてもらいたい。もう少し今後も多くの住民に参加してもらおう努力をお願いしたい。

佐藤副委員長 : 職員検討会は若い職員の方に参加してもらっているので、若い人の意見が大変参考になった。町民の方も若い人が出てくれると良いが。

草刈委員 : 町は若い人も含めて声をかけていると思うが、特に子育て世代の人が参加してくれないのは、国や県が安全といっても、信用していないというのが原因だと思う。

新谷委員 : その件に関して商工会の理事会後集まって意見を出し合い、また翌日にも事業者と住民という立場で中心市街地について会議を行う予定である。

朝田委員 : 例えば檜葉の高速道路のパーキングは震災前に高校生を集めて、意見を聞き現在の形になっている。広野町の広野道の駅も、大学生が提案したものを聞き防災型の道の駅ができる予定である。企画をたてて実現させると、そこに思い入れが出来るので、今後、町でも浪江に戻ってきた若い人たちの意見を取り入れ、公園や建物等の整備を実現してもらおうと、また違ったものになるのではないか

草刈委員 : 富岡町で行っていた、バスで見学ツアーのようなものを行っていた、そういったものもいいのではないか。

窪田委員 : 高校生や大学生に参加してもらえば、丁寧にプログラムを組んで、いい意見になるように、情報をやりとりしながら、一緒に作っていける様にした方が良い。

朝田委員 : 6 号国道に二万本の桜の木を植えるプロジェクトがある。NPO で植え続けている。一本一万円でオーナ制度を行っており、メッセージ等を入れたプラカードをかけられる。その後の成長までの管理費で一万円をいただき、桜を植えているというものである。浪江町もそういう方法もあるのではないかと思う。ふるさと納税とか使えるのではないか。
桜プロジェクトは、震災前、高校生が桜の木を植えたいと提案していた。震災後、津波でその高校生が亡くなっていたことが解り、そういう思いが実現できればという事で国交省も協力して実現できたという経緯がある。

間野委員長 : いろいろなアイデアを持寄っていかなければいけない。

(2) 検討委員会報告書（概案）の検討について

事務局：事務局から資料7について説明

間野委員長：全体の構成を頭にいれてもらい、意見をお願いしたい。

佐藤委員：P8の復興計画【第二次】の見直しの方向性について、中心市街地再生計画にも関係してくると思われまますので教えていただきたい。

事務局：中心市街地部分は復興計画【第二次】で方向性を持ってという事ではなくて、むしろ中心市街地検討委員会の計画を復興計画【第二次】に反映して作成するかたちです。

事務局：全体については復興計画【第一次】の方向性は残したまま現状に合わせる。新しい産業の方向性などが見えてきたものは見直ししていく。基本的には避難生活を支えるという事と帰町してのまちづくりの大筋は変わらない。

草刈委員：P14の2.課題⑤について、踏切も現状では通行しにくいとあるが、今すでに踏切の拡幅工事をおこなっているの、その先の道を拡幅する等を追加してもらった方が良いが。

事務局：P30の中長期の取り組みのところに書かれているが、駅周辺の北側に行く道と東側に行く道が狭いとの意見があったため、駅前のにぎわい創出のために駅周辺のみちを通行しやすくするといったイメージで書いている。課題⑤の書き方は直させていただきます。

新谷委員：[資料3]のような中心市街地の地図は報告書に載せないのか？

事務局：載せないと決めている訳ではない。

新谷委員：[資料3]の水色の点線のようにまっすぐ通りやすいようにならないかといった意見が多い。予算とかあると思うが皆そう思っている。

間野委員長：[資料3]は議論のまとめになっていて、報告書は何が実現できるか、これは難しい、これはやるべきといった色々な意見を選択した結果が載っている。これから、意見を反映して具体化するというのはあり得るか。

事務局：これまで頂いた意見を網羅する形でまとめていると思っているが、書けていない部分もある。

新谷委員：スポーツセンターを利用するのは高齢者にもいいと思う。なるべく回遊性をもたせるようにしてほしい。

窪田委員：報告書は職員検討会のときより整理されていて、前に進んでいる感じがする。中心市街地の概況 P9 について、いままでの浪江のふるさとらしいものなどもう一步踏み込んでかいていただけると次に繋がっていくと思う。浪江らしさをいままではどのようにして確保してきたのか。空間的なものも含めてまとめていただけると被災によってどうなっているから今後どうしたいのかというものがより明確になるのではないかと考える。今すでに営業を開始している事業者等を報告書 1-4 (P14) あたりに整理するのもいいと思う。

協働のあり方が P35 に書かれているが、思いをもっているけど実践に繋がっていない方を実践しやすくするとか、思いがある方を外から連れてくるとか、思いを持っていただけるような何か取り組みをするとか、どうすると協働が広がっていくかを書いていただけると、それに対応した実践とか施策が出てくるのではないかと思う。

P21 のイラストは、[資料 3] のようにスケール感を合わせた方がいいのでは。

町民からの意見で出ていた、立ち寄れる場所があったらという話も書かれていないので入れて頂きたい。

マラソンの話は中長期ではなく短期的な施策としてお願いしたい。

P32 の施策 8 伝統文化の再生では創出と再生のどちらも必要では。今回の被災をどうやって乗り越えたかという浪江の復興のアーカイブを残していくのはどうか。

P40 のビジネスマッチングの話をどのようにやっていくのかをもう少し説明を入れて頂きたい。

P41 はどちらかというところ空間の回遊路の話となっている。後ろの実践のところオンデマンドを入れると良いのでは。

中心市街地再生計画を若い人にどうやって伝えるか。これに関してはこの委員会の中で議論していけたらと。

事務局：工夫して直していく。

佐藤副委員長：P21 のイラストにいこいの村をいれてもらえないか。

間野委員長：趣旨は

佐藤副委員長：泊まる場所や食事の提供場所の確保が難しい場合に、いこいの村は自炊する事が出来るため。また、いこいの村に泊まった人がどのように中心市街地に行き来するのかが問題になるため。

間野委員長：解除後の当面の拠点ではある。

事務局：いこいの村の連携等も位置づけていきたい。

間野委員長：いこいの村を関連施設位置図等にも入れてもらいたい。避難指示解除時点で、使える物は少ないので大事である。

佐藤委員：まちづくり会社はどのように考えているのか。

空き地空き家バンクもただ登録してもらっただけでは成功しないので、いかにフォローアップしていけるかが重要である。

P23 の施策 2 の箇所で、地域包括ケアシステムを構築させる事をお願いしたい。地域包括支援センター、まちづくり会社、シルバー人材センターの役割分担を明確にして重複を少なくしていく事が重要。

P22 以降から全体的に「～する必要があります」という書き方になっているが、検討委員会としてお願いしたいと言う事でこの書き方なのか。

間野委員長：1つ目、まちづくり会社をどのように考えているか。

2つ目、高齢者の地域包括ケアシステムを実現してほしいという意見。

3つ目、避難指示解除が3月と決定してないが、3月に予定されていて、避難指示解除までの取り組みが「～する必要があります」で良いか。

事務局：まちづくり会社は道の駅を運営していく会社として必要だと考えており、設立準備をしている。最終的にはまちづくり会社が自立してやって頂きたいが、それが難しいようであれば町がまちづくり会社に委託してやっていく様に考えている。民地の草刈り等。

佐藤委員：まちづくり会社を存続させるための業務委託となってしまうのではなく、復興創生につなげていくため、行政と住民の関係、まちづくり会社と住民の関係、まちづくり会社と行政の関係を明確にした上で、まちづくり会社を位置付けておかないと、機能していかないと感じている。

事務局：空き地の除草等を所有者にやってもらいたいのが現実的には難しい、そこで町が空き地の除草等を出来ないのか、かわりにまちづくり会社等に除草をやってもらうというもの。

窪田委員：P42 を充実させないと町民が主体となったまちづくりの実現は難しいのでは。

佐藤副委員長：我々のまわりでも、空き地の草刈りをやりたいといった話は出ている。

事務局：町でも高齢の方が帰町したときの雇用として、まちづくり会社等を考えている。

事務局：P37 と P42 でまちづくり会社の話が分かれてかいてしまっている。もう少しまとめていく。

朝田委員：安全安心のまちづくりの中で、「防災」の部分が記載されていない。

間野委員長：防災はいろいろな側面が出てくるので、加えていただきたい。

事務局：町で地域防災計画の見直しをすすめている。そちらから、中心市街地に加えることを検討したい。

間野委員長：地域包括ケアシステムについては厚労省側が力をいれている。検討していただきたい。

佐藤委員：介護関係の職員が少ない中で、デイサービス、介護関係が分散していると効率が悪いので、中心市街地にコンパクトなまちづくりをしてもらおうと良い。

新谷委員：浪江小学校を改修してデイサービスなどにできるか。

事務局：教育委員会には再開するまでの一時的な利用として了解を得ているが、デイサービスとして利用できるよう小学校を改装しないといけないので難しい。既存施設で機能的に合っているものを利用することで検討したい。中心市街地の民家を小規模グループホームとして利用することも併せて検討したい。

間野委員長：避難指示解除までと避難指示解除後速やかにといった書きぶりが2章と3章では異なる。整理してほしい。

事務局：ほぼ解除の時期までに完成しているか進んできている施策と、その時期までにやっていないといけない施策の二つの要素が混在している。避難指示解除までに全くできてないというものはないと思うが、全ての施策に着手はしていると思う。混在している部分は整理する。

窪田委員：P23 に若者のキーワードもいれるべき。施策2に若者をいれるのか、他に施策をつくるか。

事務局：全ての人が健康な…にかえるのも手である。

佐藤委員：全体的に若者、こどもという言葉がない。遊具の整備はどうするか。こどもの事も盛り込んでもらった方がよい。

間野委員長：何らかの形で記載するよう検討願いたい。

(3) 今後の日程

- ・職員検討会(第4回) 1/24(火) 13:00 浪江町役場本庁舎
- ・検討委員会(第4回) 2/23(木) 13:30 浪江町役場二本松事務所

以上